

# 10周年に寄せて

## 創立10周年 さらなる飛躍へ

統括校長 並木 信治

東京都立志村学園は、平成19年11月に策定された「東京都特別支援教育推進計画 第二次実施計画」において設置が計画され、都立で4校目の高等部就業技術科設置校として平成25年4月に開校し、本年創立10周年の佳節を迎えることができました。これもひとえに、東京都教育委員会、初代校長堀内省剛先生、2代校長諏訪肇先生をはじめとする教職員の方々、児童・生徒及び保護者の皆様、特別専門講師の皆様、地域住民の皆様等の御理解並びに本校に対する深い愛情の賜物であり、ここに厚く御礼申し上げます。

志村学園の教育理念は、校訓「継続は力なり」に根差した人権の尊重、障害特性の理解、個性の伸長、豊かな人間性と社会性の涵養、自立と社会参加であり、開校から10年を経た現在も、脈々と受け継がれています。一方で、この10年間の社会の変革は目覚ましく、学校教育の担うべき役割や社会からの期待は、刻々と変化しています。さらに、近年の新型コロナウイルス出現による感染症対応は、DXに象徴されるように、教育の在り方を根本から再構築する契機となりました。時期を同じくして、本年は新学習指導要領の全学部本格実施年でもあり、これまでの足跡を振り返り、次なる10年に向けた積極的なカリキュラム・マネジメントが本校のミッションであることは間違いありません。

ポスト・コロナ社会における新たな生活様式に即した教育活動とは、『持続可能な教育活動』と言い換えることができるのではないかと考えます。一気に加速度を増した教育のデジタル化の波は、Society5.0の社会を生き抜く子供たちの教育を形作る上で、好機であると言えます。次なる10年に向け、個々の障害特性を踏まえ、溢れる情報を適切に取捨選択し、活用できる力を育む教育活動の在り方を模索し、より特色ある学校づくりに尽力し、さらなる飛躍を目指します。

関係の皆様方におかれましては、引き続き志村学園の教育活動に御理解、御協力賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

## 創立10周年を祝して

東京都教育委員会教育長 浜 佳葉子

東京都立志村学園が、創立10周年を迎えられましたことに、心からお祝いを申し上げます。また、本校の教育に御理解と御支援を賜っている地域、関係機関等の皆様に厚く御礼申し上げますとともに、本校の教育の充実・発展に御尽力され、優れた成果を上げてこられた歴代の校長先生をはじめ、教職員の方々に深く敬意を表します。

志村学園は、東京都特別支援教育推進計画に基づき、平成25年4月に肢体不自由教育部門及び知的障害教育部門(高等部就業技術科)を併置する特別支援学校として開校して以来、「継続は力なり」を校訓に、児童・生徒が目標や希望に向かって、着実に学習を積み重ねながら、自己の可能性を広げられるような教育活動を展開してきました。また、それぞれの障害種別における教育の専門性を生かし、児童・生徒の個々の障害の状態等に応じた教育を推進してきました。

肢体不自由教育部門では、児童・生徒の希望を踏まえた多様な進路の実現や、高等部卒業後の生活の質の向上を図るために、国のGIGAスクール構想や都教育委員会の「TOKYOスマート・スクール・プロジェクト」によるタブレット端末等のICT機器や支援機器等を積極的に活用するなど、効果的な学習方法の工夫に努めています。

就業技術科では、全ての生徒が3年間を通して事務・情報処理を学び、基礎的な能力を身に付けられるようにするとともに、2年生からは適性等に応じてコース選択し、民間企業等との連携を図った実践的な学習をすることにより、生徒全員の企業就労を目指しています。

本校が、創立10周年を一つの節目に、東京都における特別支援教育の一層の充実に向け、これまでの優れた教育実践を基盤として肢体不自由教育及び知的障害教育を先導するとともに、児童・生徒や保護者、地域に信頼される学校として、ますます発展されることを祈念し、お祝いの言葉といたします。

## 志村学園の初代校長として

初代 統括校長 堀内 省剛

私は、東京都立板橋学園特別支援学校（仮称）開設準備室担当校長に着任して以来、7年間にわたり本校の開設準備と開校後の学校経営に携わりました。その間、関係する多くの皆様に御理解と御支援をいただくことができました。創立10周年を迎えるにあたり、心より感謝を申し上げます。

さて、創立時の学校経営の基本方針は、「学校教育を通して児童・生徒のQOLを向上させる学校」、「特別支援教育の専門性において全国トップレベルの学校」を目指すというものでした。当時は、その実現に向け、志村学園としての教育理念を明確にし、さらに共通理解を図ることに全力を傾けました。

その際、特に注力したのが、スクールアイデンティティの確立でした。そのため、本校の校訓や学校教育目標、児童・生徒心得、校歌、校章、スクールカラーといったものには、教育理念を踏まえた意味づけを丁寧に行い、さらに「4S（整理・整頓・清潔・清掃）」の徹底を校是としました。

開校後、「継続は力なり」の校訓などを基盤としたスクールアイデンティティは早期に確立され、志村学園としての教育理念は、児童・生徒、保護者、教職員の間でしっかりと共通理解されるようになりました。校是である「4S」の徹底については、多くの方から高い評価と支持をいただくこととなり、いずれも本校の目指す学校像の実現に大きく寄与することとなりました。

創立時の学校経営の基本方針は、現在も継承されていますが、今後、本校の歴史が積み重ねられていく中で、さらなる高みを目指してほしいと願っています。そして、本校が全国の特別支援学校のフロントランナー校として存在し続けることを心から願っています。「継続は力なり」です。

結びに、本校に在籍する児童・生徒の皆さん、そして、卒業生の皆さんの今後の生活が、ますます豊かで実り多きものとなることを祈念し、本校の初代校長としての御挨拶といたします。

## 創立10周年に寄せて

第2代 統括校長 諏訪 肇

創立10周年、おめでとうございます。私は、平成30年4月から令和4年3月までの4年間、志村学園の校長として務めさせていただきました。この4年間のうち後半の2年間は、新型コロナへの対応に追われた2年間でした。

教育には“不易と流行”という言葉があります。つまり教育には変えてはいけないことと、変えていかなければならないことがあるというものです。コロナの2年間は、この“不易と流行”について考えさせられる2年間でもありました。子どもたちの幸せを願い、よりよい教育を模索し続けていく。これが“不易”であるならば、教育のDX、感染症対策、with コロナの学校行事などが“流行”となると思います。志村学園は新型コロナに直面した2年間、刻々と変わる状況に、その都度、学校全体でしなやかに対応してきました。それは教職員一人ひとりと、皆さま全員が力を合わせてくれたたまものと、本当に感謝しております。

新型コロナは、社会に急激な変化をもたらしました。この急激な変化は、恐らく、after コロナになっても、形を変え、我々に次々と押し寄せてくるでしょう。そんなとき、いち早く“流行”は何かを考え、みんなが力を合わせて変化していくことが大切です。その“流行”を見定め、変化させていくポイントは何か。それは、昨年コロナ禍の中に開催されたパラリンピックやSDGsに大きなヒントがあります。この2つによく出てくる言葉が、ダイバーシティ(多様性)とインテグレーション(包括化)、レジリエンス(しなやかさ)です。平たく言えば「みんな違っていい、優しく柔軟に対応していきましょう」ということです。これが、変化の激しい不確実な時代において、志村学園が発展していくためには必要です。是非、違いを認め合い、優しさとしなやかさのある教育を進めていっていただければと思います。

## 「教育の板橋」をめざして

板橋区教育委員会教育長 中川 修一

この度、東京都立志村学園が創立10周年を迎えたことを、心からお祝い申し上げます。

これも、ひとえに貴校の教職員をはじめ、関係する皆さまが、校訓である「継続は力なり」を体現してきたまものであると深く敬意を表します。

板橋区教育委員会では、「教育の板橋」を実現すべく、持続可能な開発のための教育である「ESD」、生涯にわたり学び続けるための「学びの循環」などの戦略的視点を持って事業を展開していますが、こうした視点は貴校の校訓とも軌を一にするものです。

貴校は、肢体不自由教育部門と高等部就業技術科を併設しており、板橋区で特別支援教育を要する児童生徒が、自立と社会参加を果たす上で、極めて重要な役割を担っています。「教育の板橋」の実現に向け、貴校のますますの発展を祈念し、お祝いの言葉と致します。

## 創立10周年を祝して

東京都北区教育委員会教育長 清正 浩靖

この度東京都立志村学園が、創立10周年を迎えられましたこと、心からお祝い申し上げます。

貴校は、平成25年に肢体不自由教育部門と都内4校目となる高等部就業技術科の設置校として開校されました。開校以来、「継続は力なり」を校訓とされ、保護者や地域の皆様の御支援、歴代校長先生をはじめ教職員の皆様方の熱意と御努力により、輝かしい成果を挙げてこられましたことに、心から敬意を表します。また、貴校との副籍交流等を通して北区の特別支援教育の推進に多大な貢献をいただき、深く感謝いたします。

貴校が、創立10周年を契機とし、今後、ますます、充実、御発展されますことを御祈念申し上げるとともに、これからも北区の特別支援教育に対する御協力、お力添えを賜りますようお願い申し上げます、お祝いの御挨拶といたします。

## 都立志村学園創立10周年を祝して

練馬区教育委員会教育長 堀 和夫

東京都立志村学園の創立10周年を心からお祝い申し上げます。

本校は平成25年4月の開校以来、個々の障害の状態等に応じた専門的な教育を推進してこられました。また、全国的障害特別支援学校高等部サッカー選手権においての2連覇など輝かしい功績をあげています。これもひとえに、歴代の校長をはじめ教職員の先生方の熱意あふれる御指導とたゆまぬ御努力と、本校を支援、育てて来られた保護者や地域の皆さまの深い御理解と御協力によるものと思います。

練馬区では、特別支援学校と区立小中学校との副籍制度を活用した交流活動をはじめ、本校の先生方に練馬区就学相談会へ御参加いただくなど、様々な面で御協力いただいております。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

創立10周年にあたり、本校がこれからも地域に愛される学校として、ますます、発展されることを祈念し、お祝いの言葉といたします。

## 都立志村学園創立10周年を祝して

社会福祉法人日本肢体不自由児協会理事長 遠藤 浩

創立10周年を迎えられましたこと、心からお祝い申し上げます。

この間に志村学園で学ばれた子どもさんの少なからずは、同じ板橋区にあります当協会運営施設の心身障害児総合医療療育センターを利用され、一方、当センターからは、地域連携・地域支援の一環として、校医や医療的ケア指導医を複数名派遣しています。

校訓は、「継続は力なり」。それぞれが目標や希望に向かって「今、自分にできること」「今、自分がすべきこと」を誠実に積み重ねることを大切にしてほしいという先生方の熱い思いが伝わってきます。

私ども日本肢体不自由児協会は、当協会の創設者高木憲次博士が掲げた「療育の理念」を実施すべく、これからは志村学園をはじめとする特別支援学校との連携を「継続」し、肢体不自由教育の発展に大いに貢献してまいります。

## 持続可能な教育活動の実現を願って

学校運営連絡協議会委員長 山内 俊久

創立10周年心よりお祝い申し上げます。平成25年開校の本校は都の計画に基づく就業技術科を擁し、肢体不自由教育ゆかりの板橋に設置されました。この年、わが国は「障害者権利条約」を締結、本校もインクルーシブ教育推進の担い手でした。このCOVID-19流行下も当初から児童・生徒の生命第一を掲げ、オンライン教材の開発やSDGsとGRITをキーワードに取り組みました教職員に多くの児童・生徒、保護者も励まされ、誰もがその雄姿を見てきました。私が最初にこの地を訪れたのは開校2年前の志村高校跡地でした。この地に足を踏み入れるために必ず登る坂の正式名は「伝兵衛坂」。3年間登り続けると1万メートルを超えるという話が「継続は力なり」の校訓につながります。これからの10年に向けても、学びを止めない、取り残さない持続可能な教育活動の実現をお祈り申し上げます。

## 安心・安全のキーステーション

西台町会 山口 和男

東京都立志村学園創立10周年おめでとうございます。見渡す限り畑ばかりの志村西台に都立志村高校が設立されたのが、今年75歳になる自分が小学校2年生の頃だったと思います。その頃は学校から帰ると今の首都高側の崖地で友達と貝の化石を見つけたりして遊んでいました。

平成25年4月に都立志村学園が開校され、西台町会との地域での助け合いである「共助」を具体化させるために、「災害時における避難所としての施設利用及び避難所運営に関する協定」を平成26年7月1日に締結しています。この協定は、地震や風水害、その他大規模災害が発生した場合、福祉避難所あるいは一般避難者を受け入れる避難所として、区が都立志村学園にその施設利用の協力を要請し、その運営について区が西台町会に協力の要請ができるというものです。今後も志村学園と西台町会の連携を図っていきたいと思います。

志村学園の児童・生徒・教職員の皆様、今後もますますの御活躍と志村学園の更なる発展を心より祈念しております。

## 志村学園と10年

川崎市北部地域療育センター 医師 山口 直人

私は2012年の開校当初から、医療的ケア指導医として月1回程度の訪問を続けています。10年間あっという間でしたが、貴重な一日一日を積み上げた子どもたち、教職員や保護者の皆さまに、心から敬意を表し、お祝いを申し上げます。

特に思い出深い経験は、宿泊行事にたくさん参加したことです。丁寧に準備していても時にハプニングが起きますが、子どもたちと先生方が協力して無事に乗り越える様子に感心し、真摯に振り返りをする先生方からもたくさん学ばせていただきました。

2021年からは学校医も務めています。私も診察室や病棟ではできない経験を学校でたくさんして、子供たちに負けないように学んでいきたいと思います。保護者の皆さまには、学校保健・医療的ケアの取り組みに引き続き御協力賜りますようよろしくお願いいたします。

## 学校医・医療的ケア指導医としての10年

心身障害児総合医療療育センター

むらさき愛育園名誉園長 北住 映二

私の勤務するセンターの外来で診療やリハビリを受けている多くのお子さんが志村学園の児童・生徒であるという関係から、学校医と医療的ケア指導医として本校に来るようになって10年がたちました。養護教諭と看護師の強力なチームワークと、保健室スタッフ・教職員・管理職とのしっかりした連携の基で、全児童・生徒の健康管理の面での着実な対応とともに、医療的ケアについても、気管カニューレ事故抜去に備えての対応、初期食注入のモデル事業の実施、医療的ケア児専用通学車両運行、人工呼吸器使用の生徒の保護者付き添いなしでの学校生活と登下校など、確実に前進的な取り組みが本校で進められてきたことを嬉しく思います。

今後もこのようなチームワークと連携での医療面の支えを基に、本校の教育がますます発展していくことを願っています。

## 入学～卒業～就労

株式会社パソナハートフル取締役副社長 白岩 忠道

この度は、都立志村学園創立10周年を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。

私たちは主に就業技術科との関りが深く、この10年の歩みを感慨深く受け止めております。1年次には、全てのコースを体験し、企業にて就業体験を行い、その体験・学習により、自己理解を深め、2年次には教師と相談し将来就職を目指すコースを自ら選択し、専門教科に取り組み、現場実習を数社行うことで、社会性を高める教育を企業と連携して根気よく行うことで、企業就労100%を実践し、素晴らしい生徒を送り出していたことに感謝申し上げます。当社に入社した社員たちも、入社時には学校生活では我慢しなくてはならないこともあったりと言っていました。数年たつと懐かしがったりあの時の経験が役に立っていると、見違えるほど立派な社会人として成長し、会社の大きな戦力となって活躍しています。

今後は社会の変化に伴う就業環境は大きく変化することが予想されますが、今だからこそ、一人一人の生徒の持つ多様性が就業に生きてくると予想しています。「職業に関する専門教科」を柱とする学校方針のもと、一人一人の生徒の更なる職業教育の充実・発展を先生方に期待しています。



## 次の10年に向けて

フォーSの会 会長 岩崎 高

今までおよそ560名の生徒が教職員、保護者、学校関係者と近隣、そして多くの企業との連携、3年間の充実した学校生活を送り、就労先を決め立派な社会人と成るべく卒業されました。その成長は、保護者にとっては、何にも代えがたい喜びです。

この3年間は、コロナという未曾有の感染症の蔓延により、フォーSの会として、活動らしい活動は出来ていません。集まることさえはばかる期間で、会の存続を危ぶむ声も聞こえております。この創立10周年の佳節は次の10年への新たな出発を決意させて頂きました。多くの生徒が学び自立を目指すこの志村学園には、その生徒の成長を切に願う保護者がおります。これからも生徒の成長と学校生活を応援し、保護者同士が支え合い、絆を結び合うフォーSの会を構築して参りたいと思います。

## 子どもたちのために

PTA会長 久保田 輝

創立10周年誠にありがとうございます。教職員の方々におかれましては、近年、コロナ禍により生活環境が大きく変わり、教育指導の場においても様々な対策が必要となり日々御尽力いただいておりますこと、誠にありがとうございます。

10年という節目の年にPTA会長として携われたことを大変嬉しく、また身の引き締まる思いでございます。

コロナ禍の影響で長期にわたりいろいろな学校行事やPTA活動の中止・見送りとなっております。ウィズコロナ、ポストコロナに対応し、PTAとして、子どもたちのためにできることは何かを保護者をはじめ先生方と共に真剣に考え、一つ一つ具現化して参りたいと思います。

これから10年先、20年先も校訓である「継続は力なり」を胸に、在校生、卒業生が誇りに思えるような学校となって行くことを願っております。